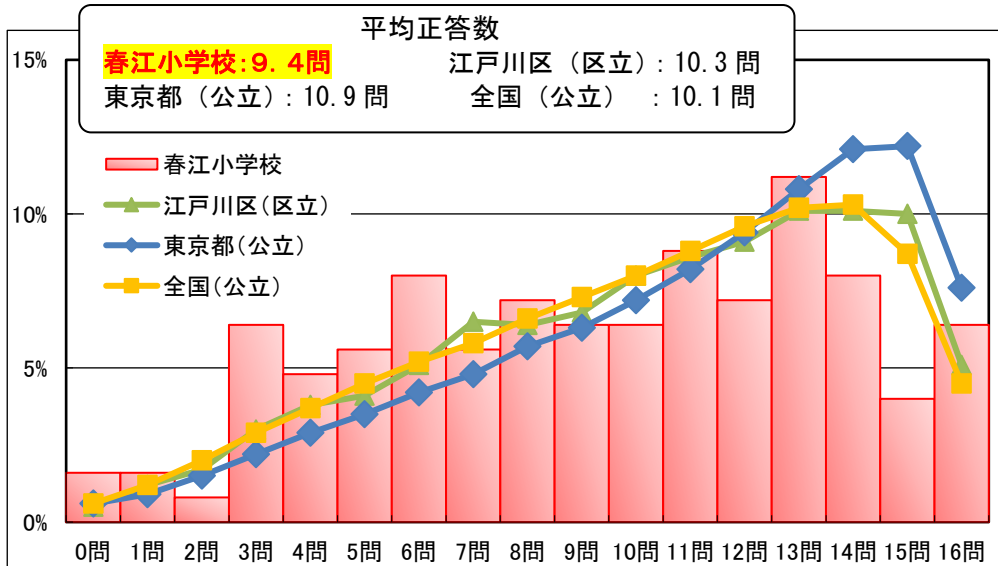


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 春江小学校

## 正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

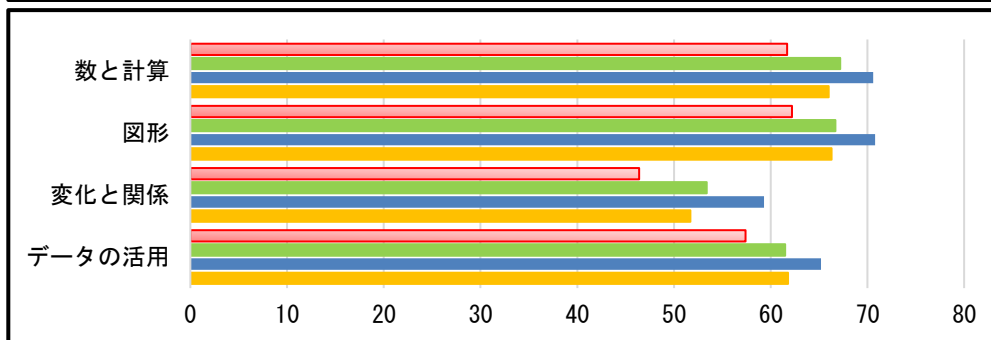
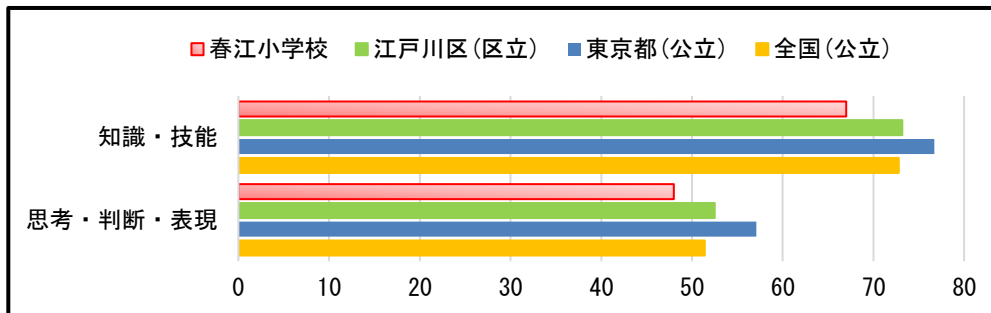
算数	上位		下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
<b>春江小学校</b>	<b>18.4</b>	<b>18.4</b>	<b>28.8</b>	<b>34.4</b>
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

### 【平均正答率の差】

<b>春江小学校</b>	<b>59%</b>
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	<b>9ポイント</b>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率で比較すると、都の正答率が68%であるのに対し、本校の正答率が59%と9%下回る結果となった。四分位で見ると、AB層が36.8%であるのに対し、CD層が63.2%と下位層の割合が多いことが分かる。CD層の児童をBC層に引き上げていくことが必要であることが分かる。

領域ごとに見ると、都の平均正答率と比べ、【データの活用】で7.8%、【数と計算】で8.9%、【図形】で8.6%、【変化と関係】で12.9%下回っていた。【変化と関係】については、3問とも速さに関する設問で多くの児童が十分な習熟に繋がっていないことが分かる。

そのために可能な限り少人数の環境の中で、それぞれの習熟度に合わせて個に応じた指導を行うとともに、単元の系統性を踏まえ、レディネステストを通じ十分に習熟できていない内容を把握する、パワーアップタイム等の補習時間を確保する等の取組から、既習事項の確実な定着を図っていく。